○　教室には，子どもたちが持ち寄ったダンボール箱が積み重ねられてあり，子どものバスごっこをしたいという活動意欲は高まっていた。

②　第２段階『自分の思いや考えを深める』

○　ほとんどの子どもが，すぐバス作りを始めた。ダンボールカッターに大変興味をもち，それを使ってダンボールを切ってみたいという願いが強かったので，その思いを満足させるまで見守っていた。しばらくダンボールを切る感覚を楽しんだ後，グループの中で作りたい物を分担して思い思いの物を作っていた。

○　ダンボールが硬くて大きく，自分が考えた形に作ることができずに困っていた子どもには，どうすればよいかを一緒に考えたり，作り直しを手伝ったりした。

○　ほとんどの児童が作りたい物の構想がまとまっている様子で，進んで活動していた。一人一人のがんばりをほめ，活動を見守った。

③　第３段階『友だちとのかかわりをもつ』

○　自分の思ったように作業が進まなかったり，作品ができなかったりする子どもの姿が見られるようになった。グループの友だちに声をかけ，協力してもらったり，うまく進んでいる友だちの作品を見にいくように促したりした。失敗しながらも何度も作り直しをしている子どもには「えらい，がんばってるね。」と声をかけ，そのがんばりをみんなにも紹介し，認めた。

◇自信のないＹ男の様子

「これ，変だもん…。」と，作りかけのタイヤを隠して作っていた。「このタイヤいいね。バスにはタイヤがなくちゃね。Ｙ君だけだよ，タイヤに気づいているの。すごい。」と声をかけたら，にこっとしたが，それでも恥ずかしそうにタイヤ作りをしていた。普段自信のないＹ男だが，他の誰も作らないタイヤが完成して満足そうだった。

◇友だちとの交流がもてないＥ子の様子

一人でバスの飾り付け作りに熱中して取り組んでいた。グループの友だちには全然関心がなく，自分勝手に作業を進めている様子なので，「その飾りきれいね。どうやって作ったの，みんなにも教えて。」と声をかけたら，同じグループの友だちも近づいてきた。Ｅ子にその飾りの作り方を教えてもらうよう促したら，みんなで楽しそうにその飾りを作り，バスに貼っていた。

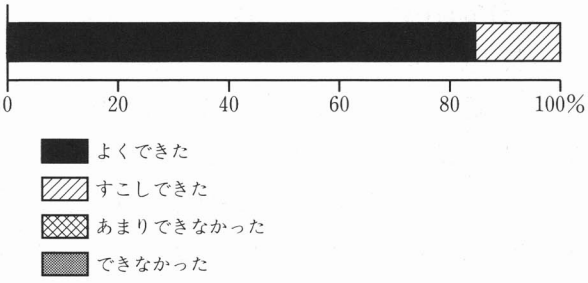
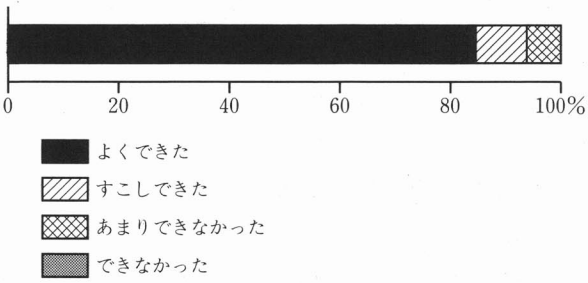
④　第４段階『友だちとのかかわりを深める』

○　「今日はここまでにしようね。」と全体に声をかけたが，まだ続けたい様子であった。「どんなバスができたかな，他のグループを見にいこう。」という投げかけで，今まで自分たちのグループの作品にしか目がいかなかった子どもも，それぞれ行きたいところに行き，お互いの作品を見せ合っていた。「うわぁ，かっこいい。」「Ｓちゃん，上手だね。」など，気づいたこと，感じたこと，感心したことを友だち同士話し合っていた。あまり注目されない子どもの作品を意図的に取り上げ，苦労したことや工夫したことを発表させて，みんなにその子どものよさに気づかせるようにした。

5　授業実践の結果と考察

(1)　自己評価カードの結果から（児童数20名）

［資料－７］〈友だちとなかよく勉強できましたか〉



［資料－８］〈自分が思ったこと，考えたこと，したいことを友だちや先生に伝えることができましたか〉